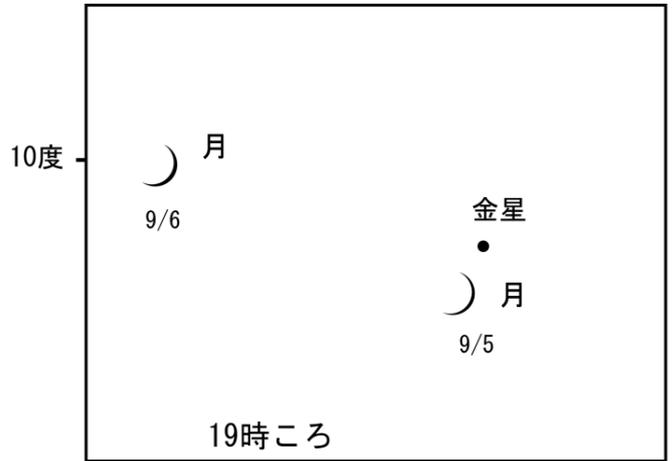


5日(木)、夕方西の空で、月と金星が並んで輝く

5日(木)の夕方、西の低い空で月と金星が並んで輝き、美しい眺めとなります。この日の日没は、18時30分ごろです。日の入り後、しばらくすると、西の低い空に、大変細い月が見えてきます。そして、この月のすぐ上に、金星が並んで見えてくるでしょう。金星が大変明るいので、日没後20分ぐらいたつと見やすくなります。

そして、日没後30分の19時ごろが最も見やすくなるでしょう。ただし、高さが低いので、西方向の見晴らしのいい所をご覧ください。その後、19時30分ごろには沈みますので、ゆっくりしていると見えなくなります。

なお、翌日の6日(金)になると、月が金星から離れ、接近は終了しますが、少し離れて、夕暮れに中に見えるでしょう。



9日(月)、土星が衝



リングを見ることができます。興味のある方はぜひご参加ください。

土星は、地球からリングが見える惑星として知られています。この土星が、9日(月)に衝(しょう)となり、観測の好機を迎えます。衝は、地球より外側を回る惑星が、太陽と反対側に来る時を言います。この時は、日の入りころ昇り、一晩中夜空に輝きます。そして、地球から最も近くなり、観測しやすくなるのです。土星は肉眼で普通の星にしか見えませんが、天体望遠鏡を使うと、リングが見えてきます。左の図は、天体望遠鏡で見た衝のころの土星の姿です。コスモシアターの9月から年末ころまでの観望会で、天体望遠鏡で実際に土星リ

西

17日(火)、中秋の名月

中秋の名月は、旧暦の8月15日で、いつもほとんど真ん丸の姿となります。今年の中秋の名月は、9月17日の火曜日となります。

この日の月は、18時ごろに東の空から昇ります。このころは、まだ高度が低いので、もう少し後の19時~20時ごろが見やすくなるでしょう。なお、今年の中秋の名月は、満月の前日で、肉眼では、まん丸の月に見えるでしょう。

ところで、月を詳しく見ると、白い所と黒っぽい所があります。この違いを見て、昔の人は月にさまざまな姿を想像しました。

図は、さまざまな国で見られた月の姿です。日本で一般的に有名なのが、もちをつかうさぎでしょう。しかし、国が変われば

ほかの姿もいろいろ考えられました。皆さんも、月にどんなものが見えるか、実際の空をご覧ください。

なお、この日は、月のすぐ近くに土星が並んで輝きます。月が眩しいので、注意深く探してください。

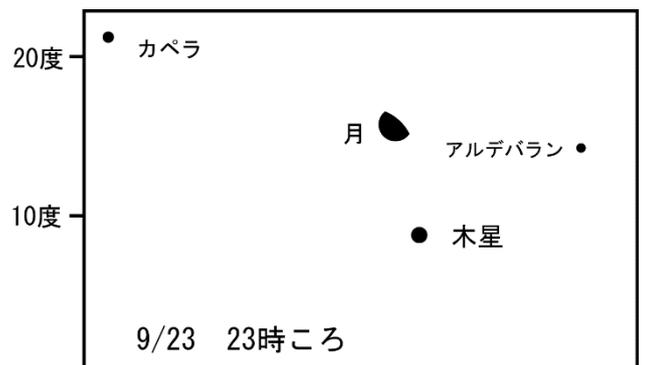


23日(月)、深夜の東の空で、月と木星が並んで輝く

23日(月)の22時ごろ、東寄りの空に、半分より少し太い月が昇ってきます。その後、しばらくすると、月を追いかけるように明るい星が昇っています。この星が木星です。木星は-2等星で大変明るくすぐに分かります。

さらに時間がたつと、南の空へ、月と木星が移動し、より目立つようになります。

ところで、月の左上に目をうつすと、ぎょしゃ座のカペラが見つかります。また、月と木星と三角を作るように、おうし座のアルデバランも見えてくるでしょう。ただし、木星ほど明るくないので、注意深く探してください。



東北東

東